

2019年12月20日  
阪神高速道路株式会社

## 第15期(2020年3月期)中間決算の概要

### 1. 連結決算の概要

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	2020年 3月期 中間期(A)	2019年 3月期 中間期(B)	増減		2020年 3月期 通期見通し	2019年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
<b>営業収益</b>						
高速道路事業	1,041	1,074	▲ 32	▲ 3.1%	4,989	2,232
料金収入	907	938	▲ 31	▲ 3.4%	1,817	1,877
道路資産完成高 <sup>(注)1</sup>	131	130	0	0.4%	3,167	347
その他売上	2	4	▲ 1	▲ 38.3%	4	7
関連事業	46	31	15	48.9%	118	76
受託事業	24	7	16	226.5%	69	19
その他の事業 <sup>(注)2</sup>	21	23	▲ 1	▲ 7.1%	49	56
セグメント間取引消去	▲ 0	▲ 0	▲ 0	-	-	▲ 2
	1,086	1,104	▲ 17	▲ 1.6%	5,108	2,306
<b>営業費用</b>						
高速道路事業	1,041	1,070	▲ 29	▲ 2.7%	4,991	2,245
道路資産賃借料	704	725	▲ 20	▲ 2.9%	1,402	1,452
道路資産完成原価 <sup>(注)1</sup>	131	130	0	0.4%	3,167	350
管理費用	205	214	▲ 9	▲ 4.3%	420	441
関連事業	43	27	15	57.2%	109	67
受託事業	24	7	16	223.4%	67	19
その他の事業 <sup>(注)2</sup>	18	19	▲ 1	▲ 6.1%	41	48
セグメント間取引消去	▲ 0	▲ 0	▲ 0	-	-	▲ 2
	1,083	1,097	▲ 13	▲ 1.3%	5,100	2,310
<b>営業利益</b>						
高速道路事業	0	3	▲ 3	▲ 98.5%	▲ 1	▲ 12
関連事業	3	3	▲ 0	▲ 14.4%	9	8
	3	7	▲ 3	▲ 55.8%	7	▲ 4
<b>経常利益</b>	5	8	▲ 3	▲ 42.6%	13	6
<b>親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益</b>	1	40	▲ 38	▲ 96.2%	7	35

(注)1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

2 関連事業の「その他の事業」には、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業等を含んでおります。

3 2020年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

## 2. 事業の状況

### (1) 高速道路事業

#### 【2020年3月期中間期の業績】

- 阪神高速道路の一日あたり平均通行台数は京都線の移管による影響等に伴い、72.0万台(前年同期比4.8%減)となりました。  
また、料金収入は907億円(前年同期比31億円減)となりました。
- 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、704億円(前年同期比20億円減)となりました。
- 道路資産完成高は、営業中路線の修繕工事等の完成により131億円(前年同期比0.5億円増)となりました。
- この結果、高速道路事業の営業利益は5百万円(前年同期比3億円減)となりました。

#### (主なピックアップ)

- ミッシングリンクの解消に向け、大和川線(鉄砲～三宅西)、淀川左岸線(海老江JCT～豊崎)、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部(六甲アイランド北～駒栄)及び西船場JCTの整備促進に努めました。
- お客さまに最高の安全と安心を提供するため、3号神戸線において終日通行止めによるリニューアル工事を実施するなど、構造物の長寿命化に向けた大規模更新・修繕事業を進めました。  
また、「お客さま満足アッププラン2019」の取組みでは、企画割引「阪神高速ETC乗り放題パス」の販売をはじめ、高機能舗装の更新等による走行快適性・安全性の向上、お客さまセンターの24時間対応化等、お客さまサービスの向上に努めました。

#### 【2020年3月期通期の見通し】

- 料金収入は、1,817億円(前年同期比59億円減)となる見込みです。
- 道路資産賃借料は、1,402億円(前年同期比49億円減)となる見込みです。
- 管理費用は、420億円(前年同期比20億円減)となる見込みです。
- この結果、高速道路事業の営業損失は1億円(前年同期は営業損失12億円)となる見込みです。

### (2) 関連事業

#### 【2020年3月期中間期の業績】

- 受託事業は、大和川線及び淀川左岸線の工事受託等により、営業収益は24億円(前年同期比16億円増)、営業費用は24億円(同16億円増)となり、営業損失は17百万円(前年同期は営業損失12百万円)となりました。
- その他の事業は、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業等を展開したことにより、営業収益は21億円(前年同期比1億円減)、営業費用は18億円(同1億円減)、営業利益は3億円(同46百万円減)となりました。

#### (主なピックアップ)

- 高速道路のお客さまに”良質な”休憩をお届けするため、泉大津PAに、高速道路PAで初となるカプセルホテルを誘致し、「HOSTEL 02(ホステロツー)」がオープンしました。

#### 【2020年3月期通期の見通し】

- 関連事業の営業収益は118億円(前年同期比42億円増)、営業費用は109億円(同41億円増)、営業利益は9億円(同1億円増)となる見込みです。

**(参考)2020年3月期中間期の個別業績について**

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	2020年 3月期 中間期(A)	2019年 3月期 中間期(B)	増減		2020年 3月期 通期見通し	2019年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
<b>営業収益</b>						
<b>高速道路事業</b>	1,038	1,069	▲ 31	▲ 2.9%	4,985	2,225
料金収入	907	938	▲ 31	▲ 3.4%	1,817	1,877
道路資産完成高	131	130	0	0.4%	3,167	347
その他売上	0	0	▲ 0	▲ 72.9%	0	0
<b>関連事業</b>	31	16	15	92.8%	84	41
受託事業	24	7	16	226.5%	69	19
その他の事業	7	9	▲ 1	▲ 17.0%	15	22
	1,070	1,086	▲ 16	▲ 1.5%	5,070	2,266
<b>営業費用</b>						
<b>高速道路事業</b>	1,040	1,065	▲ 25	▲ 2.4%	4,994	2,251
道路資産賃借料	704	725	▲ 20	▲ 2.9%	1,402	1,452
道路資産完成原価	131	130	0	0.4%	3,167	350
管理費用	204	209	▲ 5	▲ 2.6%	424	448
<b>関連事業</b>	30	15	15	100.5%	79	38
受託事業	24	7	16	223.4%	67	19
その他の事業	6	7	▲ 1	▲ 20.1%	12	19
	1,070	1,081	▲ 10	▲ 0.9%	5,074	2,290
<b>営業利益</b>						
<b>高速道路事業</b>	▲ 1	4	▲ 5	-	▲ 9	▲ 26
<b>関連事業</b>	1	1	▲ 0	▲ 3.3%	4	2
	▲ 0	5	▲ 5	-	▲ 4	▲ 24
<b>経常利益</b>	5	7	▲ 2	▲ 26.8%	4	▲ 13
<b>中間(当期)純利益</b>	4	5	▲ 1	▲ 24.1%	3	▲ 14

(注) 2020年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。